

「カタンドゥーヴァ養護学校マイクロバス整備計画」供与式

平成26年3月18日（火）サンパウロ州カタンドゥーヴァ市において、カタンドゥーヴァ障害者を支える親と友の会（APAE）に対する我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式が開催されました。供与式には、佐野浩明在サンパウロ日本国総領事代理、ジョゼ・ペレス・ペレス／カタンドゥーヴァAPAE会長、マルコ・アウレリオ・ウビアリ／ブラジルAPAE連盟理事長兼連邦下院議員、ジョゼ・ホレイ／カタンドゥーヴァ市長代理、ジュリオ・セザル・フォルテ・ラモス／カタンドゥーヴァ市議会議員、ネルソン・バサネッチ／サンパウロ州APAE連盟副理事長、オルガ・ヤマモト／カタンドゥーヴァ日伯文化体育協会会長ほか関係者約200名が出席し、来賓挨拶、供与マイクロバスの除幕等が行われました。

・佐野総領事代理は「1908年に日本人が伯に移住してきた際には、伯人は温かく迎えてくれた。カタンドゥーヴァ市に移住してきた日本人に対しても同様に温かく受け入れてくれたことに感謝申し上げます。この街の生徒たちの通学、教育環境改善支援に日本政府が携われることを嬉しく思う。この協力がカタンドゥーヴァ市と日本との距離を短くし良いパートナーとなることを望んでいる。カタンドゥーヴァの皆さんが、APAEの生徒達に対する取組やその家族へのサポートに力を注いでいる姿勢に敬意を表する。本件協力により、日伯の友情の絆がより一層深まる機会になれば嬉しく思う。」と挨拶を行いました。

・ウビアリ連邦下院議員は「伯APAE連盟理事長として、カタンドゥーヴァAPAEの生徒たちが必要としていたマイクロバスを供与いただいたことに感謝申し上げます。」と謝辞を述べました。

・ホレイ市長代理は「当市としても障害を持った生徒たちの通学に関しては常日頃から何とかしたいと考えていたが、彼らが必要としていたマイクロバスを供与いただくことで安全が確保された。資金を協力いただいた日本政府に心から感謝する。」と謝辞を述べました。

・オルガ・ヤマモト会長は「この度の日本政府による資金協力は、カタンドゥーヴァAPAEの関係者が日頃から生徒達のことを考え、通学環境の改善を切望していた結果だと思う。日本政府の協力で地元日系社会を代表し感謝申し上げます。」と挨拶を行いました。

・バサネッチ副理事長は「カタンドゥーヴァAPAEが日本政府の草の根・安全保障無償資金協力の対象に選出されたことによりマイクロバスが供与されたことを大変嬉しく思う。日本政府及びサンパウロ総領事館に心から感謝申し上げます。」と謝辞を述べました。

・ペレス会長は「昇降機能が付いた特殊マイクロバスにより生徒たちが安全で快適に通学することが可能となり、我が団体のかねてからの夢が実現した。今年、我が団体は50周年を迎える記念すべき年であり、資金協力を日本政府からいただいたことに感謝申し上げます。」と謝辞を述べました。

来賓の挨拶に続いてAPAE生徒によるダンス及び歌の発表とマイクロバスの除幕が行われました。



(供与したマイクロバス)



(佐野浩明総領事代理及び供与式出席者)

上記案件プロフィール

案件のプロフィール

案件名：「カタンドゥーヴァ養護学校マイクロバス整備計画」

被供与団体：カタンドゥーヴァ障害者を支える親と友の会

プロジェクト実施地：サンパウロ州カタンドゥーヴァ市

契約署名日：2013年11月29日

供与額：240,014.47リアル

案件概要：1964年に設立されたカタンドゥーヴァ障害者を支える親と友の会には、知的・複合障害のある約350名の生徒が通学しています。彼らは学校所有の老朽化したバンで通学していましたが、車椅子の昇降機等がなく、人力による昇降作業となるため転倒などの危険性もあり、生徒の通学の安全が確保できない他、職員等の身体的負担が大きいなど多くの問題を抱えていました。この度、車椅子昇降機及び固定装置付き通学用マイクロバスの整備に対し240,014.47リアルを草の根・人間の安全保障無償資金協力として供与することにより、障害を持つ生徒の通学をより安全なものとするようにしました。

供与品目：車椅子昇降機及び固定装置付きマイクロバス。